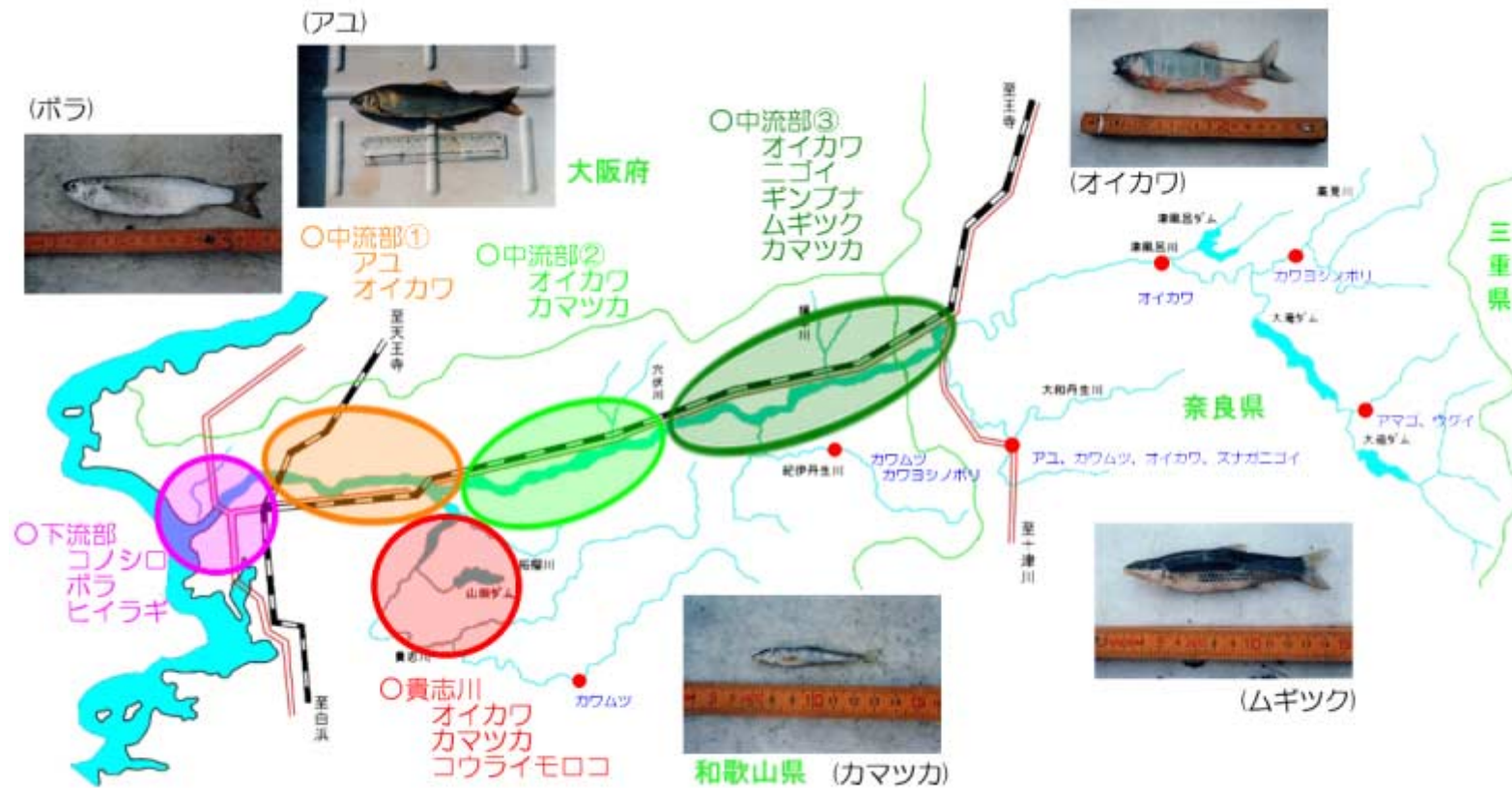


第4節 生物の現状把握

紀の川の魚類

< 区域別の魚類生息状況 >

紀の川下流部では、ボラやコノシロなどの海でもみられる魚がすみ、中流部には、オイカワやアユ、カマツカなどの淡水魚がすんでいます。さらに、上流へ行くとカワヨシノボリやアマゴなどの水のきれいな場所を好む魚がすんでいます。



紀の川の魚類

< 区域別の魚類の概要 >

下流部

汽水域

汽水域では、マイワシ、マアナゴ、マハゼなどの海水にすむ種のほかに、コイ、フナ、ナマズなどの淡水にすむ種を含め、80種の魚類が確認されており、紀の川下流部で最も魚の種類が豊富です。

淡水域

淡水域では、海水にすむ魚類はほとんどみられなくなり、かわりにオイカワ、ニゴイ、カマツカ、カワヨシノボリ、ギンブナなどの淡水にすむ種が56種確認されている。

中流部

中流部では、35種の魚類が確認されており、みられる種はオイカワ、カワヨシノボリ、ニゴイなど下流部の淡水域と似ています。

紀の川の魚類

< 魚類の注目種 >

紀の川において、学術上又は希少性の観点から選定した注目種は、以下の13種が確認されています。

下流部

汽水域

メダカ・エドハゼ・チクゼンハゼ・シロウオ・トビハゼ

淡水域

アブラハヤ・コウライモロコ・イチモンジタナゴ・アカザ・メダカ・タイワンドジョウ・シロウオ・タウナギ

中流部

アブラハヤ・コウライモロコ・ニッポンバラタナゴ・アカザ・アユカケ

紀の川の底生動物

< 区域別の底生動物生息状況 >

紀の川における底生動物としては、下流部の海水と淡水の混ざった場所にヤマトシジミやゴカイなどがすんでいます。中流部より上流では、テナガエビ、アメリカザリガニやカワナなどがすんでいます。



紀の川の底生動物

< 区域別の底生動物の概要 >

下流部

汽水域

汽水域では、ヤマトシジミ、イシマキガイ、サカマキガイなどの貝類やゴカイ、フジツボ、ヨコエビ、イワガニ、スナガニ等の仲間など182種が確認されています。

淡水域

淡水域では、スジエビ、モクズガニなどのエビ・カニ類、ヒメタニシ、サカマキガイなどの貝類、昆虫の幼虫など156種の底生動物が確認されています。

中流部

中流部では、スジエビ、サワガニなどのエビ・カニ類、ゲンジボタルの餌となるカワニナなどの貝類、昆虫の幼虫など234種の底生動物が確認されています。

紀の川の底生動物

< 底生動物の注目種 >

紀の川において、学術上又は希少性の観点から選定した注目種は、以下の24種が確認されています。

下流部

汽水域

イシマキガイ・カノコガイ・カワグチツボ・ムシヤドリカワザンショウガイ・
エドガワミスゴマツボ・マルウズラタマキビガイ・フトヘナタリガイ・
アカニシ・ウネナシトヤマガイ・マゴコロガイ・オキナガイ・ソトオリガイ・
ミナミテナガエビ・マキトラノオガニ・シオマネキ・ハクセンシオマネキ・
トリウミアカイソモドキ・ウモレベンケイガニ・台湾ンヒライソモドキ・
ヒメケフサイソガニ・ヒガタスナホリムシ

淡水域

イシマキガイ・ミナミテナガエビ・キイロカワカゲロウ・ミヤマサナエ・ミズムシ

中流部

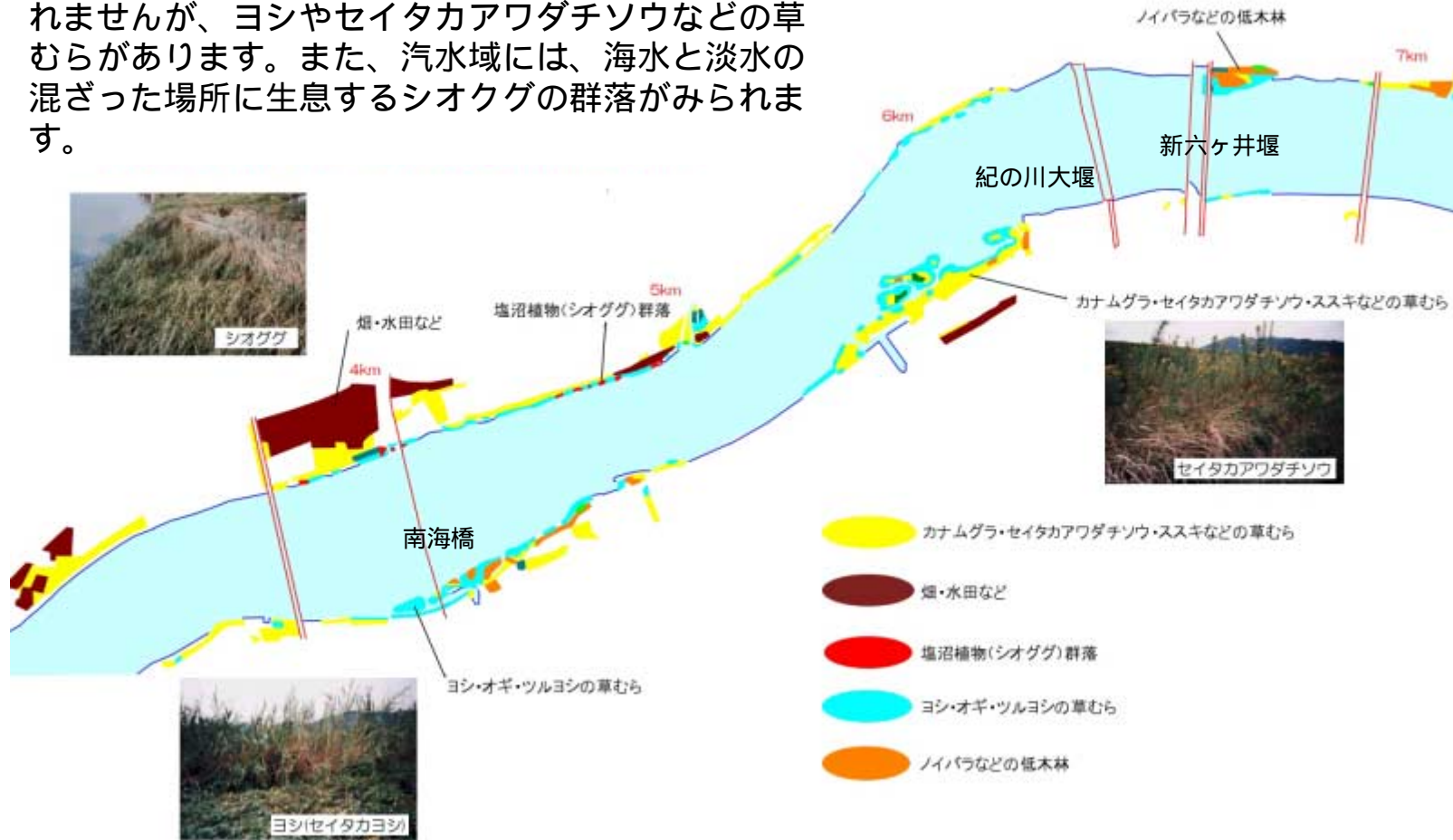
モノアラガイ・ミナミテナガエビ・キイロカワカゲロウ・ミヤマサナエ・ミズムシ

紀の川の植物

< 区域別の植物生息状況1 >

下流部の植生

紀の川の下流部では、まとまった植生はあまりみられません。ヨシやセイタカアワダチソウなどの草むらがあります。また、汽水域には、海水と淡水の混ざった場所に生息するシオグクの群落が見られます。



紀の川の植物

< 区域別の植物生息状況2 >

中流部の植生(1)

紀の川の中流部では、ヨシ、カワラヨモギ、セイタカアワダチソウなどの草むらや竹林が広く分布し、川岸にはツルヨシ、カワラナデシコ、ネコヤナギがみられます。

また、船岡山ではアラカシなどの林がみられます。

